【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第６部門第２区分
【発行日】平成21年11月5日(2009.11.5)

【公開番号】特開2007-114757(P2007-114757A)
【公開日】平成19年5月10日(2007.5.10)
【年通号数】公開・登録公報2007-017
【出願番号】特願2006-249255(P2006-249255)
【国際特許分類】
Ｇ０３Ｇ　15/08　　(2006.01)
【ＦＩ】
Ｇ０３Ｇ　15/08　　５０７Ｘ
Ｇ０３Ｇ　15/08　　５０７Ｌ

【手続補正書】
【提出日】平成21年9月11日(2009.9.11)
【手続補正１】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００４１
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００４１】
（１）画像形成装置例の概略構成説明
図１は本実施例における画像形成装置の概略構成模型図である。本例の画像形成装置は、像担持体としてアモルファスシリコン（非晶質シリコン）感光体（ａ－Ｓｉ感光体）を用いた、負帯電極性の感光体、イメージ露光方式、反転現像方式の電子写真レーザープリンタであり、１２００ｄｐｉの解像度を有する。
【手続補正２】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００４５
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００４５】
次いで、その帯電処理面に対して露光器３により光像露光Ｌがなされて、感光体面に静電潜像（静電像）が形成される。本例において露光器３はレーザースキャナである。このスキャナはパーソナルコンピュータ等の不図示のホスト装置から画像形成装置に入力する画像信号に対応して変調されたレーザー光を出力して感光体１の帯電面を走査露光Ｌする。これにより、露光された感光体面の明部の電位が減衰して、露光されない暗部電位と露光された明部電位との電位コントラストにより感光体面に画像信号に対応した画像パターンの静電潜像が形成される。本例においては、明部電位である最高濃度部の潜像電位Ｖｌは－１５０Ｖである。最高濃度部は、現像バイアスの直流成分と静電潜像の画像部電位（明部電位）との電位差が最大の部分であり、ベタ画像部分のことである。
【手続補正３】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００４９
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００４９】
また、記録材分離後の感光体１は、クリーナー７によって転写残トナー等の残留付着物の除去を受け、さらに前露光ランプ８による全面露光を受けて電気的に初期化され、繰り

返して作像に供される。
【手続補正４】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００５０
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００５０】
（２）白抜け防止
（２－１）その１
上記の画像形成装置において、「白抜け」の発生具合を調べた。すなわち、最高濃度部の感光体上のトナーの単位面積あたりの重量Ｍ／Ｓ＝０．５～０．８ｍｇ／ｃｍ^2（０．５ｍｇ／ｃｍ^{2}以上０．８ｍｇ／ｃｍ^{2}以下、＝５～８ｇ／ｍ^2）に対し、感光体上のトナーの単位重さあたりの電荷量Ｑ／Ｍを変化させ、中間調部と最高濃度部が隣接した画像の出力を行った際の「白抜け」の発生具合を調べた。
【手続補正５】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００６８
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００６８】
また、最高濃度部に対する最大現像コントラスト電位Ｖｃｏｎｔを１５０Ｖ以上２５０Ｖ以下にする（電位差Ｖｃｏｎｔは、１５０Ｖ≦Ｖｃｏｎｔ≦２５０Ｖを満たす）ことにより、十分な階調性を得るためのγを確保することができ、中間調をきちんと表現できる高精細な画像出力を行うことが出来る。
【手続補正６】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００８５
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００８５】
＜トナー層の厚さＬｔ＞
３次元形状測定レーザー顕微鏡（キーエンス製ＶＫ－９５００）を用いて、感光体上のトナー層がある部位と無い部位の高さを測定し、その差分を算出することによりトナー層厚Ｌｔを求めた。